

八峰白神ジオパーク

連載 114回



事務局

八峰町産業振興課 ジオパーク推進係

☎ 0185 (76) 4605 FAX 0185 (76) 2203

HP <http://www.shirakami.or.jp/~happo-sh-geo/>



地域の人から昔の話っこを聞きました！

ジオパークには欠かせない大地で暮らす人々の記憶
地域の人から昔話を聞いて、大地と人のつながりを考えます

とまりだい あまがた 泊台、尼瀉の話



話をしてくれた人

工藤哲弥 くどうてつや さん

1934年、旧八森町浜田生まれ。中学校の教師として35年教育現場に携わる。現在は八峰町老人クラブの会長として活躍中。趣味はガーデニング。

○子どもの頃の思い出

「あのか弱いいたずらが学校の先生になったてが」昔の子どもは、遊びといえはいたずらが主だったようです。教師として八森中学校に長くいましたので、私の子どもの頃を知っている人はよくそう話していたそうです。

友達は、尼瀉にあるコウモリ穴の岩場に泳いで行ったり、鹿島祭りで使い終わった船に乗ったりして行き、コウモリを怖がることもなく、岩穴の天井にぶら下がっているコウモリをぱっと素手で捕まえて遊んだりしていたのですよ。

中学生の頃は、今の国道はまだなく、中学校に行く道は遠回りする山道であったので、私はよく線路づたいに大急ぎで歩いて行きました。

また、あの頃の蒸気機関車は泊の坂を登れず、松源院の辺りまで引き返して石炭をいっぱい焚いて馬力を付けて登ってきたのを思い出します。

○尼瀉・ビジマの名前の由来

鹿の浦展望台があるところは泊台と呼んでいてヤブだったんですよ。そして、泊台の北側の浜に、一人の尼さんが流れ着いたことから尼瀉と呼んだと言われています。その尼さんが住むところを探して泊川をさかのぼって行って、大きな洞穴を見つけ、そこに住み着いて（尼子岩）村人を助けたという言い伝えがあります。

また、ここはビジ（微葉。浜に漂着した落ち葉のかたまり）がよく溜まるのでビジマとも云われていました。農家の人たちは、そのビジをモッコ（※）で運んで雨ざらしにした後に肥料として使っていました。

※モッコは背中に背負ってものを運ぶ道具。

かえる ○「蛙」岩なのに「馬」の神！？

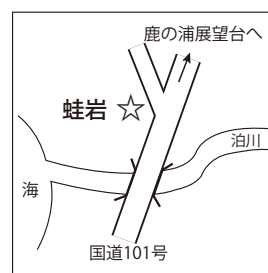
昔の人はこんな独特な形の岩などは神の仕業と考えたのだろうか、蛙の形をした岩を「蛙岩」と呼び、小さなほころをつくり「黒尊仏」を祀り「馬の神」としました。そのことを約2百年前に地域の人菅江真澄に説明した記録が残っています（下図）。当時の農家にとっては、馬は重要な労働力であったので神様から護ってもらったのでしょうか。



菅江真澄の描いた泊の「蛙岩」



現在の蛙岩の様子



蛙岩の位置図